

第21回むつ市総合教育会議議事録

開催日時： 令和4年9月29日（14：00～14：50）

開催場所： むつ市役所 第4会議室

出席者： 宮下 宗一郎 むつ市長
阿部 謙一 教育長
田中 志昌 教育委員
納谷 順子 教育委員
黒木 和之 教育委員

事務局	教育委員会	伊藤	教育部長
		鷺岳	政策推進監
		工藤	教育委員会総務課長
		祐川	副理事（学校教育課長）
		櫻井	副理事（図書館長）
		畑山	生涯学習課長
		木村	中央公民館長
		金浜	川内公民館長
		二本柳	大畑公民館長
		山崎	脇野沢公民館長
		新田	総務課主幹
		関	総務課主任

1. 開会

事務局： ただ今より、第21回むつ市総合教育会議を開催いたします。

本会議は、むつ市総合教育会議設置要綱第5条第1項に基づき、市長が招集し、本日は同設置要綱第2条第1項に規定する大綱の策定について協議いたします。

事務局： それでは、議事に移らせていただきます。
会議の進行は市長に努めていただきます。よろしく願いいたします。

2. 議事

報告(1)

宮下市長： それでは、次第に沿って会議を進めます。

はじめに、8月26日に開催された会議で提示いたしました、むつ市教育大綱から今回どのように変更したのか、ということについて、事務局から説明をお願いします。

事務局（鷲岳政策推進監）： 資料1、カラー版の資料をご覧ください。

本文2ページもありますが、表紙の青字で書かれた部分が教育方針となります。

学校教育と社会教育を通じて、未来を担う子供たちが高い自己肯定感を持ち、他者を尊重し、生きる力を育む。といたしました。

次のページをお開きください。

重点項目として、「生きる力」を育むことが、終始一貫してブレることのない方向性であり、重要なコンセプトとして捉え、1. 学校教育の充実、2. 社会教育の充実の2点を重要項目とし、各種施策を実施することといたします。

施策項目は、学校教育の充実では4項目、社会教育の充実では2項目とし、前回まで掲載しておりました「教育基盤の整備」については、削除いたしました。

以上が、再編成のポイントでございます。よろしく願いいたします。

ただいまの説明に、委員の皆様からの質疑等にお答えをお願いいたします。

それでは、各委員から、講演を聴いての感想や質疑をお願いします。

宮下市長： ただ今の説明に対しまして、皆様から意見等はございますでしょうか。

皆様からいただいた意見をですね、パワーポイントはともかくとして、中身の方では追加修正という形で載せています。

質問がなければ次に移らせていただきます。よろしいでしょうか

(異議なし)

報告(2)

宮下市長： 続きまして、むつ市教育大綱(案)に対する、むつ市内小中学校校長からの意見とパブリックコメントに寄せられた意見について、事務局より報告願います。

事務局（鷲岳政策推進監）： はじめに、パブリックコメントの結果についてです。

9月13日から27日までの15日間、ホームページ及び主要施設の窓口にむつ市教育大綱(案)を閲覧できるようにして、意見を募集いたしました。寄せられた意見はありませんでした。

次に、市内各小中学校校長先生に、教育大綱(案)について、意見を求めたところ、資料2のとおりご意見がありました。

私の方から「I. はじめに」について説明いたします。

「I. はじめに」については、市長の想いについて記述されているところですが、中段に、「こうした世界の変化は、私たち自身が解決していかなければなりません。」と記述がありましたが、ここについて変更を求める意見がありまして、それに対する事務局の回答案として、「こうした世界の変化によって生じてくるであろう課題については、私たち自身が解決して行かなければなりません。」という形に修正したいと思っております。

他の事項については、学校教育課から願います。

事務局（祐川副理事）： 学校教育の充実について関わる質問と回答です。

まず、(1) 学力の向上①明確な目標設定についてであります。教育委員会では、学力の向上に対して、様々な施策に取り組んでいますが、取り組んだ結果、有効かどうか検証する必要があります。成果検証の指標となるものであることを御理解いただきたい。というものになります。

続いて、④0歳から18歳までの切れ目のない学力の向上施策の推進についてというところで、幼稚園、保育園と小学校の連携の必要性ということが述べられていますが、このことにつきましては、この教育大綱を基にして、学校教育プランというものを現在作成しているところでありますが、このプランの中に、幼稚園、保育園と小学校との連携を図るという項目を載せることにしております。今後も、就学前、入学後の相談体制の充実に努めていくことにしております。

続いて、(2) 体育・健康教育の充実、①健康な体を育む学校づくりについてですが、マラソンや縄跳びのみの指導と誤解されるのではないかと指摘ですが、学校では健康増進のためマラソンや縄跳びなど様々な運動を取り入れています。この例示としてあげたものだとお伝えしてご理解いただきたいと思

っております。

続いて、(3) 夢を育む教育②特別支援教育の充実についてです。

5歳児検診の実施を加えてはどうかという御意見ですが、5歳児検診については意見にあるとおりの発達の状況や特別な支援を必要かどうか等について把握することにつながるものであります。医療機関等の協力も必要であることから、今後の検討課題としていただくことで御理解いただきたいと思っております。

続いて4つ目、(4) 地域とともにある学校①ふるさとむつ市への愛着と誇りを育む教育についてですが、教育課程の編成をもっと尊重すべきではないかという御意見につきましてですが、ジオパークに関する学習については、現在も市内の全ての学校で取り組まれておりまして、ふるさとの理解につながるものだと考えておりますので、今後もジオパークを教材として活用していただきたいと御理解いただきたいと思っております。

以上です。

宮下市長： いま、パブリックコメントには意見がなくて、小中学校の校長先生から御意見がありましたけれども、その他、皆様から何かございますでしょうか。

特になければ、意見がないようですので、報告についてはこれで終わります。

私の印象としては、皆さん関心が無いなど非常に残念に思っています。校長先生方にしても、世の中にしても関心無いなという風に思いますが、ただ、関心が無いというのは、変わることがないとみんなが思っていることなんでしょう。

ただ、そういう面もあると思えますけど、そうではない世界を私たちはどうやって作っていくかということが大事だと思っております。

黒木委員： 学力向上をすごく嫌がっている気がするんです。

学力向上がテストの点数向上となる危険性をはらんでいるのではないかと。テストの点数向上以外の何物でもない。学校の成績は、テストで簡単に計れるものなので、それを嫌がっている理由はちょっとよくわからないので、どなたか分かる方がいたら。

事務局（祐川副理事） 学力向上につきましては、点数向上の危険性と書かれていますけれども、つまり、点数のみ拘束ということになるのではないかと考えていることではないか。点数に拘束あまり、テスト対策に力を入れるとか、繰り返し繰り返しドリルにだけ力を入れるとか、本来育むべき基礎基本を育むのは当然ですけれど、思考力、判断力、表現力とか、そういうことが疎かになって、本当に点数点数を気にしてしまうところがあるのではないかと考えているということかなと、思っています。ただ、学力については、点数はもちろんですけれど、例えば学習意欲とか学習習慣とか学ぶ力というようなところも含めて学校の方では学力と考えておりますので、このような質問になっているのではと思っています。

黒木委員： 学習習慣とか学習意欲というのは全部の点数に全て、成果資料として表れるものなので、テストの前にやる学習意欲、学習習慣。

もしも、点数点数というのが思考力が云々というのであれば、テストが間違っている。思考力を試すテストをやれば良いだけです。私には理解できない。

宮下市長： 私も同感です。

結局ですね、この方がどなたかとか、何を言っているのかはさておき、大綱の4ページで学力の向上に明確な目標設定というものがあります。この明確な目標設定ということは、まさに授業の改善点は、プロセスの話ですけれども、数値目標ですね、学力検査等による

学習状況の分析結果等を根拠として、学校教育プランに明確な目標設定を示すということと、各校が実態に応じた数値目標を設定すると書いていますので、やはり点数というところにも拘束して学校の中でやっていくことになろうかと思っています。

先ほど、関心が無いという話をして、関係無いと思っているかもしれませんが、こっちにしっかり書いていますので、これはしっかりと学校の方でやっていただきたいと思っておりますので、私たちの理解はしっかりと学校に伝えていただきたいと考えています。

その他、ございますか。

納谷委員： マラソンや縄跳びがちょっと引っかけたんです。

例示しなくても、例えば学校生活の中で常に体を動かせるようになったとか、いま、ダンスとかもしているもので、もし、例示するのであれば、今新しく必須になったものの代表的なものとか、そういうのでいいのかな。マラソンとかはちょっと古いと感ずきます。例示しなくてもいいのでは。

宮下市長： 確かにそうですね。マラソンと縄跳びって古い代表的なもので、たくさん走れ、たくさん飛べ、ロッキー見ないな感じです。何でこのようになったんでしょう。

事務局（伊藤教育部長） マラソンとか縄跳びに取り組んでいる学校が、小学校とか中心に多くて、こういう表現になった。

納谷委員： 肥満対策のために取り入れて、走って飛びましょう。

事務局（伊藤教育部長） 下北一周とかみたいなものを学校では取り入れています。

納谷委員： 表を貼って、シールを貼って取り組

んでいるんですけど、大綱の中に載せるというのはいかがでしょうか。

宮下市長： 消しましょうか。

例示がなくても、どういう運動なのか。健康づくり・・・。

教育長いかがですか。

阿部教育長： 一番可能なのが、様々な運動とか、興味関心を持つ運動とかで、例示を外すことは可能かと思えます。

宮下市長： 田中教育委員どうですか。

田中委員： 実はこれ、私、作っているときどんなことやっているのと聞いたのがそのまま載ってしまった。

宮下市長： 「健康な体を育む運動」にしますか。教育長よろしいですか。

阿部教育長： はい。

宮下市長： そうしましょう。そこだけ直しましょう。田中先生よろしいでしょうか。

田中委員： はい。

宮下市長： そのほかも含めて大丈夫ですか。ここだけを修正して議事に移りたいと思います。

案件(1) むつ市教育大綱の決定について

宮下市長： むつ市教育大綱の決定についてあります。

これまで、皆様から御意見をたくさんいただきました。また、ここに至る過程では、昨年度、百ます計算の陰山先生に来ていただいたりとか、あるいは、インフィニティの大谷先生に来ていただいたとか、代ゼミの高宮さ

んにオンラインで講演いただいたりとか、山田高校の黒田監督にもお話を聞きました。そういった課程を踏まえてここまでできましたけれども、再編成のポイントについても説明があり、議論は尽くされたものと考えています。

細かい修正はありましたけれども、この内容で第2期むつ市教育大綱として決定したいと考えますが、皆様これでよろしいでしょうか。

(異議なし)

宮下市長： それでは、決定させていただきます。

説明(1) 大綱を具現化するための事業説明

宮下市長： ここで、ただ今決定しました教育大綱の理念をすすめるにあたり、各所属において柱となる施策を説明してください。総務課から説明をお願いします。

事務局(工藤総務課長)： 学力の向上を図るにあたり、地域課題の1つである医師不足に対応することを目的として、高校生を対象に「まさかり高校医学部進学・特進コース事業」を予備校の協力を得て講習会を実施してまいります。

また、東京大学と連携し、下北Project事業の一環として、小中学校の児童生徒を対象とした「まさかり寺子屋事業」を実施し、東大生による学習支援を推進します。

次に、大畑地区の小学校は、5メートル以上の津波浸水区域となっていることから、児童の安全のために、小学校の統合も含めた安全対策を早急に検討してまいります。

コミュニティ・スクールの推進により、学校と地域が目標や課題を共有し、ともに連携・協働しながら双方の活性化につなげるために、学校運営協議会会議において各学校の実情を踏まえながら、学校運営等について地

域の参画を進めます。

宮下市長： 生涯学習課から説明をお願いします。

事務局(畑山生涯学習課長)： スポーツ面では、著名なスポーツ指導者、選手をむつ市に招致し、子供たちはもちろんのこと、むつ市の指導者にむけて、教室及び講習会を行います。

生涯学習面では、設置しているむつ市地域学校協働本部において、学校と地域との活動を強化し、様々な活動を通して子どもたちの環境づくりを促進します。

文化財については、既存の施設や学校等を活用しながら保存を行い、収蔵品を有効活用することにより文化財に親しむ機会の充実に努めます。

中学校文化部活動については、スポーツ部活動と方向性を合わせ、「むつ市版総合型地域文化クラブ」を創設し、子どもから大人までが一層文化活動に親しめる環境を整備します。

宮下市長： 学校教育課から説明をお願いします。

事務局(祐川学校教育課長)： 学力の向上に向け、知識・技能の習得と活用力の育成をねらいとして、学力向上プログラムを各学校に通知し、2学期から授業改善に取り組んでいるほか、デジタル教材の有効活用、これまでの教育実践とICTの効果的な組合せによる指導の充実に取り組みます。

様々な教育課題に対応し、児童生徒の健やかな成長に資するよう教員の資質向上に向け、弘前大学との連携による教科・健康教育に関する6つの講座の開催や、全国的な研究大会への参加費助成など、研修の機会の充実に取り組みます。

タブレット端末の活用については、タブレット上での意見や考えの共有、小学校4

教科・中学校5教科のデジタル教材の活用、体育での撮影した映像をもとにした自らの改善点の把握等のほか、今年度は全校に配備されたデジタル教科書を用いた英語の発音の練習、紙の教科書では不可能な資料動画の視聴をするなどICTの効果的な活用に努めていきます。

児童生徒の健康増進のため、弘前大学大学院医学研究科の協力による「健康の未来を考えるプロジェクト授業」を実施し、健康課題の解決に向けた実践を推進します。

キャリア教育については、社会的・職業的な自立に向け、明確な目的と学習内容を設定して職場体験等の校外学習の効果的な実施に努めるとともに、キャリア教育講演会、むつ市中学生夢育む体験入学事業を実施します。

特別な配慮を要する児童生徒への支援を充実させるため、特別支援教育推進委員会の総合判断を生かした支援の充実と、早期からの相談体制の整備に取り組むとともに、一人一人の教育的ニーズに応じた指導を実現する校内支援体制の構築に努めます。

ジオサイトの見学や体験活動、講師を招いての講話など様々な学習を通して、学習内容を深化・統合させながら地域への理解と愛着を深められるよう、ジオパーク体験活動推進事業の充実に取り組みます。

その他

宮下市長： 次に、その他となっていますが、委員の皆様から何か案件はありますか。

(なし)

宮下市長： では、以上をもちまして議事を終了させていただきます。事務局にお返しします。

事務局： これをもちまして、第 21 回むつ市総合教育会議を閉会します。なお、第 2 期むつ市教育大綱については、10 月に開催されます定例記者会見で発表させていただきます、その後、ホームページ等で公表いたします。

また、本日の協議内容、経過につきましては、要点をまとめた上、むつ市公式ホームページに掲示することにより公表することといたしますので、御了承願います。

本日は誠にありがとうございました。

(終わり)